

底抜けのバカの歌

バカになろう

バカはバカだから 過去を思い出せない

バカになろう

バカは引き算と足し算を覚えていないので いつも無一物

バカになろう

バカは自分がどこにいるかも分からない

バカになろう

バカは 木漏れ陽のように一瞬一瞬 明るく清らかだ

バカになろう

バカはバカと侮^{あなご}われ 蹴っ飛ばされても いつもニコニコ ありがとう ぼっかり

バカになろう

バカはさわりなく 生かされるままに生きているだけ

バカになろう

バカは昼は大地と空に溶け込み 夜は宇宙大に密かに身をまかせて 屈託がない

バカになろう

バカは着たきりスズメに破れた麦藁帽子 その満ち足りた響き

バカになろう

バカの春は風の色を観 夏は鳥の歌に遊ぶ 秋は花の声を聴き 冬は軒端^{よだれ}で涎を垂らす

バカになろう

バカはあるがままの命を活かしている この老いぼれ たただ者じゃない

バカになろう

バカに名前を問えば分からないというだろう そのスッカラカンの無名性

バカになろう

バカにはとらわれたところが見当たらない この果てしのない深さ 自在な広がりは何だ

バカになろう

この誰でもないバカは知恵と愚かさが同居している てらいの無い不思議さ

バカになろう

バカは乞食のよう 生垣の外をリズムカルに歩く はたして生きているのだろうか

計りしれない 底無しの バカよ

敗者の影を負った愛^{かな}しみの自由人 お前はまばゆすぎる バカよ……